

いわき湯本病院 丹野 梨絵（看護部 3F病棟副主任）

功 績 3F療養病棟の副主任である丹野梨絵は、以前勤務していた病院でも褥瘡委員であったという経験を活かし、当院においても褥瘡委員として医師、リハビリスタッフと率先してコミュニケーションを図り、褥瘡改善・防止の意識を全職員に浸透させた功績

推 薦 者 布施 由美（看護部長/看護師）

推 薦 理 由 丹野看護師は行動力があり、様々な経験を通して当院のサービスの質を向上させてくれる、当院になくてはならない看護師です。丹野看護師が受賞する事によって、全看護師の意識を向上させられると思います。

内 容

3F療養病棟の丹野梨絵看護師は、当院の褥瘡委員として、褥瘡発生防止・改善の取組みを率先して実行しています。特に昨年のTQM活動においては、積極的に対策の浸透に取り組んでいました。

2016年3月に頸椎損傷の女性患者さんが入院してきました。その時には褥瘡はありませんでしたが、2019年2月から仙骨部に褥瘡が発生。DESIGN－R8点の褥瘡があり、褥瘡回診で処置開始となりました。経過の中で所為の継続を行なっていたが、11月にはDESIGN－R40点で褥瘡をカットし、その後も処置を続けたが、2020年1月にはDESIGN－R43点となり、難治性の褥瘡で改善は難しいと診断されました。

丹野看護師は、当院に入職する前の病院でも褥瘡委員として、褥瘡改善に取り組んでいた経験を活かし、医師、栄養士、リハビリスタッフ、病棟看護師と情報共有し、入浴の週3回実施、手浴・足浴の実施、体位交換の実施、除圧のポジショニング、栄養の補給を行なうという対策を立てました。

さらに丹野看護師は対策を立てるばかりではなく、関係する全職員を巻き込んだ褥瘡対策を展開しました。担当以外の看護師に対しても、いっしょに訪室し、取組み内容を実践して見せたり、委員会でも現在の対応状況を他病棟職員にリアルタイムで報告する事で、全職員の褥瘡改善に対する意識を向上させるに至りました。

このような行動は当院のサービスの質の向上に大いに貢献したものであるため、理事長賞に推薦致します。